道徳科学習指導案

日　時　令和８年１月 21 日（水）
第５校時　13:30～14:20
学校名
対　象　第１学年　組　　名
会　場　３階　　教室
授業者

１　主題名

思いやりを行動に　　B　思いやり、感謝

２　ねらいと教材名

(1) ねらい　　相手の立場や気持ちを理解、共感し、思いやりの心をもって人と関わろうとする実践意欲と態度を育てる。

(2) 教材名　　「旗」（出典：「中学道徳　あすを生きる１」日本文教出版）

３　主題設定の理由

(1) 価値観

本主題は、中学校学習指導要領（平成２９年３月公示）

> 第３章　特別の教科　道徳　第２　内容
> B　主として人との関わりに関すること
> ［思いやり、感謝］
> 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。

を受けて設定した。

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編　第３章　道徳科の内容　第２節　内容項目の指導の観点　思いやり、感謝　の内容項目の概要には、「思いやりの心は、自分が他者に能動的に接するときに必要な心の在り方である。他者の立場を尊重しながら、親切にし、いたわり、励ます生き方として現れる。それはまた、黙って温かく見守るといった表に現れない場合もある。したがって、思いやりの心の根底には、人間尊重の精神に基づく人間に対する深い理解と共感がなければならない。このように考えれば、思いやりの心は、単なるあわれみと混同されるべきものではないことがわかる。」と記されている。

人間的な交わりの場が急速に少なくなりつつある社会環境と合わせて、温かい人間愛に恵まれないと感じて、人はとかく利己的、自己中心的になりやすく、他を省みない行動に走る場合がある。そのため、他者の立場や気持ちを理解、共感し、自分も他者も、共にかけがいのない存在であるということをしっかりと自覚できるようにすることが大切である。他者の立場を尊重しながら、親切にし、いたわり、励まそうという実践意欲と態度を育てる。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、一人一人が自分の考えをもつことができており、それを表現することのできる生徒が多い。また、自分の考えとは異なる場合であっても他者の考えを否定することなく、コミュニケーションを取ることができている。日頃の学校生活においても、自分の役割をきちんと把握し、できる限り役割を果たそうと努めている生徒が多く、困っている仲間がいた場合には声を掛け、手を差し伸べている場面も見られる。運動会などの学校行事においても仲間の個性を認め、励まし合い、助け合うことができている。しかし、学校生活にも慣れ、自我意識が高まりつつあり、自分たちの利益のみを追求し、自分と関わりが薄いと思われる集団や成員に対して無関心になってしまう時期でもある。利己心や狭い仲間意識を克服し、相手の立場を理解し、協力し合って、よりよい人間関係の構築に努めることの大切さを考えられるようにしていく。

(3) 教材観

【教材文の概要】

転校してきて間もなく交通事故に遭い、入院と自宅療養を余儀なくされた少女は、退屈な日々の中で、窓の外にたなびくレモン色の旗を見ることがさびしさを紛らわす唯一の楽しみになっていた。ある日、できたばかりの友達の一人が訪ねてきた。みんなでクラス旗を作るために使う布をもらいに来た友達と学校のことなど楽しく話した。うれしくなった少女はその旗のことを話した。しかし翌日、渡せなかった布を取りに来た友達はそれ以来何の音沙汰もなく、少女の心はなんとなく弾まなかった。登校再開の前日、いつものように黄色い旗を見ようとした少女は、そこに色とりどりのパッチワークの旗を見た。その旗の中心には赤いバラが縫い取られた少女の布が据えられていた。翌日、おずおずと登校した少女はクラス全員の拍手に迎えられ、クラス旗が掲げられたいきさつを知る。

【教材文活用の視点】

転校してきて間もなく交通事故に遭い、勉強の遅れや、親しい友達をつくることができていない少女の不安、孤独感を押さえる。また、クラス旗にする小さな布をもらいに来た友達に、旗を見る楽しさなどを話すが、その後連絡がなくなり、より一層クラスや友達を信頼できなくなっている点も確認する。しかし、登校日前日に窓を開けた時、クラス旗がはためいているのを目にする。「クラスの相談の結果、彼からのたってのねがいで、その父親が、きのうの朝の 30 分間だけ屋上の塔にクラス旗をかかげるのをゆるしてくれた。」という場面から、そう簡単には実現できなかったであろうクラス旗設置の実現に向けて、クラスメートがどのような思いで父親を説得したのか、そして、それらの事実を知った少女がどのような気持ちを抱いたのかを役割演技の活動を通して考えられるようにし、相手の置かれている立場を理解し、共感し、互いに励まし、助け合い、協力し合うことで信頼関係が築かれ、よりよい人間関係の構築につながることを理解できるようにする。

【教材分析】

場面（登場人物の言動）	心の動き	○基本発問　◎中心発問
少女が旗ばかりを眺めていることを知った場面	これまでは、そこまで関心を寄せてこなかった友達が、少女の置かれている状況に気付いた。	○　「遠い旗をながめながら、妙にしんとして聞いていた友達は、きゅうにふりかえって、少女の肩に手をおいた。」とあるが、そのときの友達はどのような気持ちだったのだろう。

クラス旗を屋上の塔に掲げるのを父親に説得する場面	少女の置かれている立場や状況を理解、共感し、少しでも助けになりたいという友達の思い。	◎　友達や商店の息子はどのような思いから父親にクラス旗の旗上げを説得しようと思ったのだろうか。
あくる日、おずおずと登校した少女がクラス全員の拍手に迎えられた場面	みんなで夢中になって旗を縫ったいきさつを笑いながら話す友達に少女の心は大きな喜びでいっぱいになった。	○　少女に、この町へ引っ越してきてよかったと心から思わせたものは何だろうか。

4　年間指導計画における位置付け

本時　主題名　思いやりを行動に　B　思いやり、感謝
　　教材名　「旗」

5　指導に当たって

「クラスの相談の結果、かれからのたってのねがいで、その父親が、きのうの朝の 30 分間だけ屋上の塔にクラス旗をかかげるのをゆるしてくれた。」という場面から、そう簡単には実現できなかったであろうクラス旗設置の実現に向けて、クラスメートがどのような思いで父親を説得したのかを役割演技の活動を通して考えられるようにする。実際に説得し、そう簡単に実現できない場面を当事者として体験することで、自分事として捉えることができ、クラスメートの思いをより深く感じることができる。また、役割演技に十分な時間を確保するため、教材の範読は事前に行う。

6　本時

(1)　本時の展開

	学習内容・学習活動 ○発問　◎中心発問　・予想される生徒の発言	◇指導上の留意点 ◆評価の視点
導 入 (5 分)	1　本時の学習への意欲・関心、問題意識をもつ。 ○　よりよい人間関係を築いていくために大切なことは何だろうか。	◇　導入は短時間で終えられるようにする。数名の発言を聞く。 ◇　「クラスへの感謝メッセージカード」で作ったクリスマスツリーを提示する。
展 開 (40 分)	2　登場人物の関係性をまとめた後、発問について考え、話し合う。	◇　役割演技の時間を十分に確保するため、教材の提示と範読は事前に行う。 ◇　少女は、転校してきて間もなく交通事故に遭い、勉強の遅れや、親しい友達をつくることができていない不安や孤独感を感じている点を押さえる。

	○　「遠い旗をながめながら、妙にしんとして聞いていた友達は、きゅうにふりかえって、少女の肩に手をおいた。」とあるが、それを聞いた友達はどのような気持ちだったのだろう。 ・　会いに来なくて悪かったな、ごめんね。 ・　そんな寂しい思いをしていたのか。 ・　旗が友達なんて寂しすぎる。 ・　何とかして元気づけたい。	◇　少女にとって、レモン色の旗がどのような存在であったかを確認する。 ◇　これまでは、そこまで関心を寄せてこなかった友達が、少女の置かれている状況に気付いた点を押さえる。
	3　クラスメート（友達と商店の息子）が父親にクラス旗の旗上げを説得している場面を役割演技する。	◇　不安や孤独感を感じていた少女が、登校日に窓を開けて目にしたものを確認し、役割演技へ入る。
	◎　友達や商店の息子はどのような思いから父親にクラス旗の旗上げを説得しようと思ったのだろうか。 ・　少しでも少女の不安を軽減し、登校できるようにしたい。 ・　一人ではなく、みんな仲間だと伝えたい。 ・　困っていると知ったから、少しでも助けてあげたい。	◇　商店の宣伝用の旗を降ろし、朝の 30 分間のみクラス旗をかかげる許しを得ることは、そう簡単なことではなく、クラスメートの思いが父親に伝わったことを確認する。 ◇　最初は個人で考え、自分の考えを整理する。その後、小グループで意見共有を行い、続いて学級全体でも意見共有を行う。
	補　クラスメートは少女と関わりが少なかったので、そこまでしなくてもよかったはず。少女のためにそこまで必死になれたのはなぜか。 ・　毎日旗をながめ、様々な思いにふけるのが日課になっているくらい寂しい状況にあることに気付いたから。 ・　自分が少女の立場だったらかなりつらいと感じたから。	◇　少女の置かれている立場を理解し、共感できたからこそ、思いやりのある行動をとることができた点を確認する。 ◇　グループで意見を交換する場合は、原則メモは取らずに、相手の目を見て話すように指導する。 ◇　生徒の意見に対して「なぜそう考えたのか」「どういうことか詳しく教えてほしい」など、問い返しを行い、より深く考えることができるようにする。 ◆　利己的な考えや狭い仲間意識を乗り越えて、互いに励まし、助け合い、協力し合うことの大切さについて、多面的・多角的に考えようとしている。（発言、話合い）

	○　少女に、この町へ引っ越してきてよかったと心から思わせたものは何だろうか。 ・　少女の置かれている状況を考えて、喜ばせようとしてくれた友達の思いやり。 ・　クラスのみんなで、前日までに間に合うように、夢中でクラス旗をつくってくれたこと。 ・　自分のために旗上げの説得をしてくれたこと。	◇　少女の思いやりのある行動が他の生徒や父親にまで連鎖して伝わっている点を確認する。
終 末 (5 分)	4　自分自身について振り返り、本時のまとめをする。 ○　本時を振り返って、気付いたことや感じたことを書きましょう。	◇　本時の内容を振り返り、自己内対話を行う。また、感じたことは学級全体で共有する。 ◆　相手の置かれている立場や状況を理解、共感し、思いやりのある行動をとることの大切さについて自分自身との関わりの中で深めようとしている。 （ワークシート）

(2)　評価

ア　利己的な考えや狭い仲間意識を乗り越えて、互いに励まし、助け合い、協力し合うことの大切さについて、多面的・多角的に考えようとしている。（発言、話合い）

イ　相手の置かれている立場や状況を理解、共感し、思いやりのある行動をとることの大切さについて自分自身との関わりの中で深めようとしている。（ワークシート）

(3)　板書計画

『旗』

場面絵 ←掲げられたクラス旗

＜少女のおかれている状況＞
・交通事故で 1 か月休んでいる。
・勉強の遅れ、不安。
・転校してきたばかりで親しい友だちもいない。
場面絵

○旗ばかりながめていることを知った級友
・会いに来なくてごめんね。
・そんな寂しい思いをしていたのか。
・何とかして元気付けたい。
場面絵

○説得している友達と息子
・少しでも不安なく登校できるようにしたい。
・一人ではないことを伝えたい。
・困っていると知ったから助けてあげたい。

○少女の気持ちを変えたもの
・自分の立場を考えて、励ましてくれた思いやり。
・自分のためにクラスみんなが旗を作ってくれたこと。

(4)　授業観察の視点

ア　学習指導過程の構成と指導の手立て、発問構成は、適切なものとなっていたか。

イ　道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめる学習は適切であったか。

ウ　物事を多面的・多角的に考える学習活動は適切であったか。